



いつかは指定登録されたい 文化財子備軍

交野の町並み

現在の交野市は、江戸時代の8つの村(郡津・倉治・私部・寺・森・傍示・私市・星田)が明治から昭和にかけて合併を繰り返す中で生まれました。江戸時代の8つの村は、現在の地区にも継承されています。近年、新しい住宅地が増える一方で、近世以来の地区の一部に古き良き町並みも受け継がれています。私部の北田家住宅(国指定重要文化財)と山野家住宅(国登録文化財)、寺の山添家住宅(国指定重要文化財)が古建築として有名ですが、この他にも歴史豊かな町並みが残っており、交野ならではの「文化的景観」を見ることができます。地元に住む人にとっては見慣れた景色かもしれませんが、実は交野の歴史文化を伝える文化財なのです。

「遠見遮断」の道

車が行き違うのも難しい、クランク状に屈折する道が多く残ります。これは「遠見遮断」の道と呼ばれ、村の自衛のため、よそものが立ち入れないよう道の見通しを悪くしたものです。こうした道は、江戸時代の各地区の絵図にも描かれており、近世以来の道が現代に引き継がれていることがわかります。



「遠見遮断」の道(星田)

道端の石造物

道沿いに燈籠や石碑、石仏などさまざまな石造物があります。これらの多くは、江戸時代から地元の人々によって守り継がれています。



村の共同生活の名残

倉治には、「二平川の洗場」と呼ばれる場所があります。これはかつての村の共同の洗濯場で、川の水で洗濯物をたたいて洗うたたき石の台石が残ります。現在のように洗濯機が登場していなかった時代の名残です。



二平川の洗場と周辺の町並み(倉治)

和風建築群

和風の主屋や、長屋門(門と長屋が一体化したもの)・土蔵など伝統的な建築が数多く維持され、交野の伝統的な町並みの景観を生み出しています。



土蔵と長屋門が並ぶ町並み(私市)